

養護研究部

1 研究主題

心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進
～主体的に健康づくりに取り組む児童の育成を目指して～

2 研究主題について

これまで養護研究会では、生涯にわたって健康で安全な生活や健全な食生活を送ることができるよう、必要な情報を自ら収集し、適切な意思決定や行動選択を行うことができる力を子どもたち一人ひとりに育むことを目指して研究を進めてきた。新型コロナウイルス感染症拡大の終息がみえず、子どもたちは「新しい生活様式」にも慣れてきた様子が見え始める。しかし、制約が多い中心の問題も浮き彫りになってきている。そんな中でも、子どもの貧困、不登校やいじめの問題、ネットトラブル、アレルギー疾患の増加、体力の低下、性の逸脱行動、薬物乱用等、健康問題の多様化のほか、自然災害に対する危機管理や防災教育の必要性も高まっている。子どもたちが身に付けるべき資質や能力、学ぶべき内容等、教育課程の全体像を念頭に置き、各教科等の学びを通じて子どもたちが「何ができるようになるのか」「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」を考えながらマネジメントすることが求められている。このように多様な今日的課題に向き合うとき、子どもたちが自立した人間として、様々な情報や出来事を受け止め、主体的に判断しながら、他者と一緒に生き、課題を解決していく力を育むことが重要である。そこでテーマを「心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進」とし、サブテーマを「主体的に健康づくりに取り組む児童の育成を目指して」と設定した。

3 研究方法

昨年度は中止にした会も多くあったが、今年度はICTを活用しリモート開催を行うことができた。研究会役員がICTの研修にも積極的に参加し、リモート開催や配信について学び、会員に広げていくこともできた。しかし、できれば顔を合わせて研究を進めたい思いもあり、社会情勢を見ながら毎月の予定を決めていくことになったが、連絡を取り合いながら決めていくことができた。配信で会議を進めるにあたり、学校事情によって養護教諭がタブレットをもらえないことも多くあることがわかり、課題だと感じた。担任だけでなく、養護教諭も確実にタブレットを持つことができるようになるとうい。

4 年間活動(事業)報告

月	日	内容	会場	月	日	内容	会場
4	21	養護研究会 総会	書面総会	11	10	企画会 健康教育専門部会	Classroom開催 東戸塚小学校
5	12 19	健康教育専門部会 企画会	八景小学校 ZOOM開催	12	1 2	市一斉授業研究会 企画会	東戸塚小学校 Classroom開催
6	11 16	第1回18区部長 会企画会 健康教育専門部会	ZOOM開催 ZOOM開催 八景小学校	1	12 14	企画会 健康教育専門部会 第2回18区部長会	Classroom開催 八景小学校 学校保健センター
7	7	企画会 健康教育専門部会	ZOOM開催 八景小学校	2	2 3	県小教研中央研究大 会企画会 健康教育専門部会 第二次研究大会	オンライン開催 Classroom開催 八景小学校 配信
9	1 8	第二次研究大会 (昨年度延期分) 企画会 健康教育専門部会	配信 ZOOM開催 ZOOM開催				
10	6	企画会 健康教育専門部会	Classroom開催 東戸塚小学校	3	1 9	企画会 健康教育専門部会	Classroom開催 八景小学校

5 研究の成果と課題

(1) 全体研修会

例年であれば、分科会に分かれ、養護教諭による実践提案があり多くの学びにつながる研修会である。体験を伴う提案も多い研修のために紙面での提案では伝わりにくい部分も多く、今年度はコロナウィルス感染症の流行により、昨年度延期した二次大会を開催するために、中止をすることになった。次年度は、録画配信や Googlemeet の活用も考え、開催する方法を検討している。

(2) 市一斉授業研究会

東戸塚小学校 授業者： T1 春木 理恵 教諭 T2 嶋 春香 養護教諭

6 年 活動名 「生活時間を上手にマネジメントしよう ～睡眠編～

題材名 学級活動（2）ーウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

「すいみんや生活習慣を見直そう」

今年度は教室に大勢入ることができないため、授業を直接参観する人数を絞り、別室でライブビューイングを行った。多くの養護教諭が集まるリスクも考え、人数を制限しての研究会とした。24時間サークルメーカーを使って自分の生活習慣を見直し、睡眠に関する実験結果などを交えて、眠りの効果を事前活動で学んでいたこともあり、「時間」、「入眠前の行動」、「生活の仕方」の3点について、子どもたちからたくさんの意見があがっていた。

今回は指導案検討から育成課指導教官樋代洋子先生・健康教育食育課吉澤千春指導主事・八景小学校校矢野校長にご指導いただき、次のようなご指導をいただくことができた。

- ・担任と養護教諭が子どもたちに愛情をもって授業を考えている姿や、子どもたちが活発に意見交流していた姿は素晴らしい。また、子どもたちが自分の生活の中に落としこんで考えを深めていたと思う。
- ・子どもたちの個人カードに、先生から一人ひとりにコメントがあり、すばらしかった。しっかりみているからこそ、子どもたちは自分の課題についてよく考えられた。
- ・生活に関する内容は家庭の協力が必要。学年だよりやほけんだよりで呼びかけて発信していくことも大事。
- ・学級活動（2）の養護教諭の関わりとして、児童が課題を「つかむ」「さぐる」の場面で、課題が健康面で体に与える影響や根拠について養護教諭が専門的な立場から話をするところがある。今回の授業で養護教諭の「睡眠と光」の話が、児童の課題への理解、改善への意欲が高まった。
- ・授業のねらいや児童の実態を理解し、活動の時間配分を行う。授業で養護教諭が話す際は、効果的な出番や内容を担任と共通理解する。担任や養護教諭が話をしすぎると、児童の活動時間が少なくなることがある。今後も担任と連携しながら、児童の振り返り等も参考にして授業改善を進めてほしい。

(3) 夏・冬の第二次教育研究大会

昨年度発表予定であった磯子区と港北区の研究発表を集合開催できるように9月(夏)に延期していたが、コロナウィルス感染症の流行拡大が収まらず、集合開催はできなかった。本来予定されていた2月(冬)も第6波の予想がだされていたため、今年度は Googlemeet を使用して配信とした。数年間にわたり研究を積み重ねており、紙上発表でなく、提案したい、提案を聞きたいということもあるためできれば集合開催が望ましい。また、配信については役員の負担が大きいため、どのようにしていくのかよいか方法等が課題である。

今年度も新型コロナウイルス感染症の流行により、研究のために集まることが難しいことが多かった。児童のためにも研究の歩みを止めずにできることをやっていく姿勢が問われた年でもあったように思う。次年度も活動が制限されることが予想されるが、ICT を活用し今までの研究の成果を発表できるように対応をしていきたい。